

多自然川づくり取り組み事例

タイトル：最上川下流河道掘削事業における樹木再繁茂対策について		
水系/河川名：最上川水系/最上川	河川分類：大河川	
河川の流域面 7040	整備計画流量：7000m ³ /s	セグメント：2-1
事業：環境整備	事業開始年度 令和2年度	
目標設定：定性的	段階：C(モニタリング・評価時)	
課題・目的(主な)：流下能力の確保、湿地、ヨシ原の保全・再生・創出		
工法(主な)：掘削(高水敷)		
配慮事項(主な)：その他		

背景・課題、目標設定

<背景>

樹木再繁茂対策として、赤川では河道掘削面へのオギ群落の表土を敷均し、ヤナギ類の侵入抑制を図り、モニタリングしているところである。

最上川下流においても同様の対策をおこない、同様の結果が得られるか施工・モニタリングをおこなうこととした。

<課題>

過年度より樹木再繁茂が流下阻害となっていることが課題である。平成29年より実施し良好な結果が得られた事例を参考にオギ・ヨシ類等の草本類による樹木繁茂対策をおこなう。

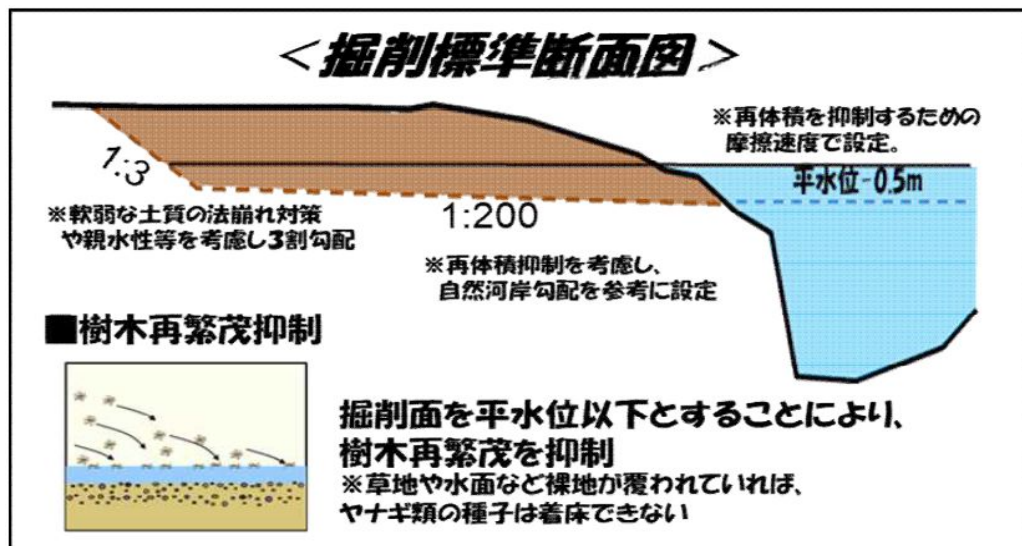
<目標>

概ね5年程度でのオギ・ヨシ群落の形成と、ヤナギ類の侵入を防ぎ、樹木再繁茂対策の成功事例(酒田河川国道事務所管内2事例目)としていく。



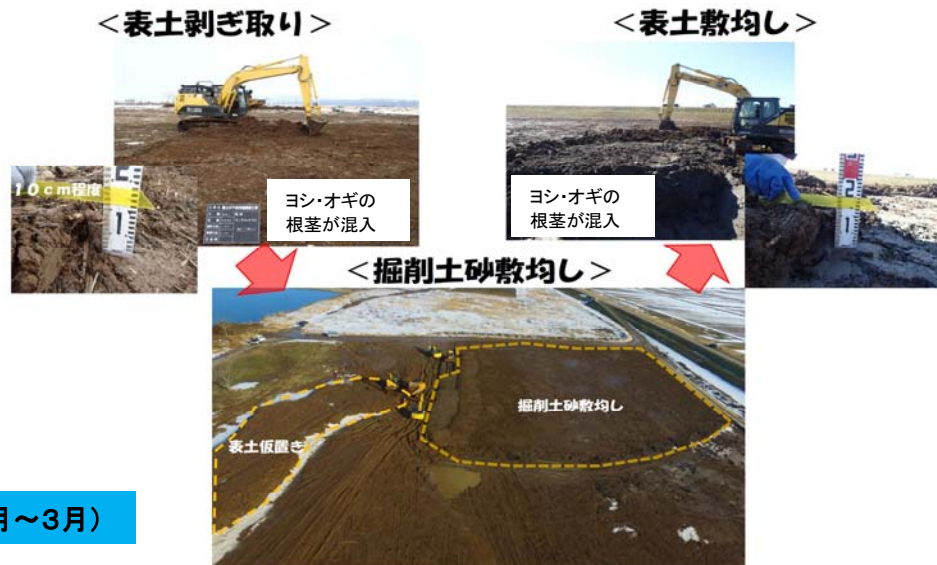
取り組み内容・対策例(1/2)

- 河道掘削面を平水位以下とすることにより、樹木再繁茂を抑制。
 ※草地や水面などで裸地が覆われていれば、ヤナギ類の種子は着床できない
 →上記に加えて、赤川の成功事例を参考に最上川の高水敷きにオギ・ヨシの根茎を含んだ掘削土砂を最上川の高水敷き窪地に敷均した。



取り組み内容・対策例 (2/2)

2. 現場において10cm表土を剥ぎ取り、ヨシ・オギ等の根茎が混入した河道掘削土砂を10cm敷均した。

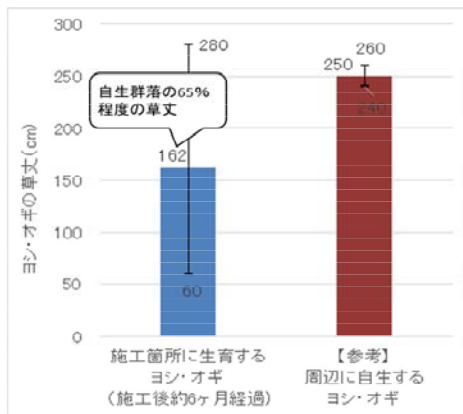


施工実施(令和3年2月~3月)

モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

<モニタリング結果>

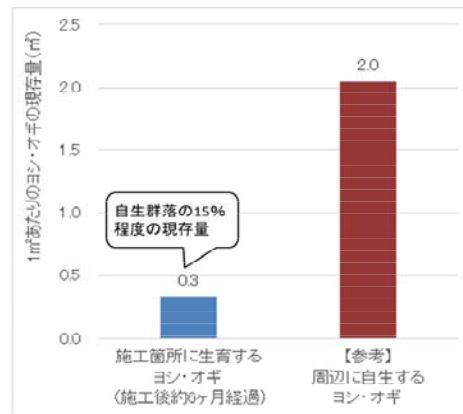
- ・表土敷均し後約6カ月で周辺に自生するヨシ・オギ群落の65%程度まで伸長していた。
- ・ヨシ・オギの現存量は、敷均し後約6カ月で周辺に自生するヨシ・オギ群落の15%程度まで増加。



ヨシ・オギの草丈

※ヨシ・オギの草丈は、各群落を代表するコードラート(方形枠)中の最大値を整理

ヨシ・オギの草丈は、表土敷き均し後約6ヶ月で、周辺に自生するヨシ・オギ群落の65%程度まで伸長していた。



ヨシ・オギの現存量

※ヨシ・オギの現存量は、各群落のヨシ・オギの面積×草丈で算出

ヨシ・オギの現存量は、表土敷き均し後約6ヶ月で、周辺に自生するヨシ・オギ群落の15%程度まで増加していた。

施工実施(令和3年9月)

<今後の対応方針>

・赤川における同様の試験施工においては、約4年でオギ群落が100%となり、ヤナギ類の侵入を効果的に抑制し樹木繁茂対策となっていることから、当該箇所においても3~4年間のモニタリングを継続実施していく。